

5. 神奈川県 横浜市立図書館

横浜市立図書館における児童生徒に対する多文化・多言語サービス推進事業

(平成 20 年度地域の図書館サービス充実支援事業)

(1) 事業の趣旨・概要

日本で暮らす外国につながりをもつ子どもたち（外国籍または両親等が外国出身）に母語で書かれた児童書等を提供するとともに、諸言語から日本語に翻訳された本を通じて、日本の子どもたちと外国につながりをもつ子どもたちとの交流を推進し、異文化への理解を育み、国際的視野をもった人材を育成するための条件整備を行う。

※委託先・図書館の概要（平成 20 年 3 月末現在）

委託先	自治体・機関名	横浜中央図書館
	所在地	〒220-0032 神奈川県横浜市西区老松町 1
	連絡先	TEL 045-262-0050
		FAX 045-262-0052
URL http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/		
図書館の概要（平成 20 年 3 月末現在）	職員数	92 人（うち嘱託 11 人／司書 65 人） ※中央図書館のみ
	開館時間	中央図書館 火～金 9：30～20：30 土・日・月・祝 9：30～17：00 地域図書館 火～金 9：30～19：00 土・日・月・祝 9：30～17：00
	年間開館日数	340 日
	蔵書数	（市全体）3,640,055 冊 （中央図書館）1,422,455 冊
	利用登録者数	（市全体）1,031,799 人 （中央図書館）156,949 人
	年間利用者数	（入館者）1,220,149 人 ※中央図書館のみ
	年間貸出冊数	1,362,472 冊 ※中央図書館のみ
	運営状況	中央図書館及び各区に設置された地域館ともに、すべての図書館サービスに関わる業務を職員が担当している。地域館は、事務職 1 名、司書 6～11 名、嘱託 1～3 名の計 8 名～15 名の職員で運営されている。 平成 21 年第 1 回横浜市会において「横浜市立図書館条例の一部を改正する条例案」が可決され、地域図書館 1 館（青葉区・山内図書館）への指定管理者制度導入が 22 年度から試行的に実施される予定である。

※地域の現況・特色

横浜市は、日本の市町村で人口が最も多く、東京湾に面した神奈川県最大の都市である。外国籍市民が多く（外国人登録人口は約 7 万 8 千人）、地域によっては外国籍市民の集住地区もある。特に外国人児童生徒が多い学校には国際教室が設置され、5 人以上に 1 人、20 人以上に 2 人の教師が付いて日本語指導を行っている他、通訳ボランティアの派遣も実施している。

図書館は、18 行政区に 1 館ずつ 17 の地域館が配置され、中央図書館のある西区は中央館が地域館を兼ねている。外国籍市民が多いことから、中央図書館には、各言語の原書、雑誌、新聞等がまとめて配置されている「外国語本コーナー」や、児童書コーナーには「外国の絵本コーナー」が設置されている。また、「図書館利用案内 6 カ国語一覧表」（英語、中国語、ハンガール語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語）が各図書館のカウンターで配布されているなど、外国籍市民に配慮したサービスが実施されている。

面積：434.98km² 人口：365 万 4 千人

(2) 事業の実施体制

事業実施にあたっては、「横浜国立図書館における児童生徒に対する多文化・多言語サービス推進事業実行委員会」を組織した。

<委員構成>

よこはまライブラリーフレンドメンバー 8名（うち5名がかながわこどもひろばメンバー兼）、かながわこどもひろばメンバー 1名、市教育委員会生涯学習課職員 2名、市中央図書館企画運営課職員 3名 計 14名

<主な役割>

事業全般に関する企画・運営

「よこはまライブラリーフレンド」について

「よこはまライブラリーフレンド」は、中央図書館の改築オープンに合わせ、横浜の図書館を守り、育てることを目的に 1995 年 10 月に設立された市民の自主組織である。現在まで、図書館をテーマにした勉強会（読書会）を定期的に行いながら、図書館の見学会や図書館利用に関する講座等を多数企画・実施している。

20 年度の会員数は 55 名。

(3) 事業体系

実施した事業は下記の 4 つである。

①見学会・ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> i 国際教室生徒の中央図書館見学会「図書館探検 中央図書館に行ってみよう！」 ii 多言語科学あそびの会「図書館で科学あそびを楽しもう！」 iii タイ語母語教室児童と保護者の中央図書館見学会
②展示会と展示図書の紹介	<ul style="list-style-type: none"> i 中央図書館における展示会と関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ア. 展示会「子どもの本で知るアジアの国々」 イ. ギャラリートーク・ブックトーク ウ. おはなし会 ii 泉図書館における展示会と関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ア. 展示会「子どもの本で知るアジアの国々」 イ. 展示会関連事業「おはなし会と本のしょうかい」 ウ. 講座「絵本で知るアジアの国々」
③学校への児童書セット貸出	<ul style="list-style-type: none"> i 児童書セット貸出 ii ブックトーク
④講演会と事業報告会	<ul style="list-style-type: none"> i 講演会「多文化社会を生きる子どもと読書～ 違いをゆたかさにしよう！～」 ii 多文化・多言語サービス推進事業実行委員会の活動報告会

(4) 当事業に取り組んだ背景・経緯

市民の自主組織である「よこはまライブラリーフレンド」（以下 YLF と表記）が、図書館に図書館活動への市民参加（司書の専門性を侵さない範囲内の館内・施設利用案内、図書館行事の共同企画・運営等）の提案を行っていたことを踏まえ、図書館側から YLF へ当委託事業の共同企画・運営を提案した。YLF は、外国につながりをもつ子どもたちが多い横浜の現状から、図書館の多文化サービス充実の必要性を感じ、また、多文化サービスに関わる講演会、見学会等の実施経験もあったことから、その内容を基本に当委託事業案を企画した。その際、より内容を豊かにするため、神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）において「かながわこどもひろば」という市民グループが 2000 年より毎年実施している「絵本で知る世界の国々～展示とブックトーク」を参考にすることになった。YLF のメンバーの多くが「かながわこどもひろば」のメンバーと重なっていることもあり、「かながわこどもひろば」とも連携し、両会のメンバーから市民 9 名が実行委員会に入って、児童生徒に対する多文化・多言語サービスについての事業の企画から運営までを図書館と協働で行った。

ii 多言語科学あそびの会「図書館で科学あそびを楽しもう！」

日時：平成20年12月20日（土）13:30～15:30

対象：フィリピン、タイ、中国につながりをもつ児童生徒及び保護者

参加者：小学生13名、中学生1名、高校生4名、大人6名 計24名

会場：南図書館会議室

講師：実践女子大学教授（科学あそび）

内容：タガログ語の通訳をつけ、科学あそびのワークショップを行った。科学あそびの内容は、「かこ・さとしかがくの本8 よわいかみつよいかたち」（かこさとし／著 童心社）をもとにした。その他に、図書館利用説明・フロア見学、英語絵本の読み聞かせ、タガログ語絵本の読み聞かせ、タイ語絵本の紹介も行った

対応者：講師1名、実行委員6名、通訳者2名、南図書館職員1名、中央図書館企画運営課職員3名

広報：国際教室のある南図書館近隣の2小学校に広報依頼、南図書館でチラシ配布

【工夫のポイント】

同日午前に、講師、実行委員、通訳者、会場館担当者（南図書館）、事務局の計12名で打ち合わせを行い、通訳者が本番でスムーズに通訳するためのリハーサルを行った。

科学あそびの会の様子



iii タイ語母語教室児童と保護者の中央図書館見学会

日時：平成20年12月26日（金）13:30～15:30

対象：南吉田小学校（南区）児童13名（小学校1～4年生）、大人6名（保護者3名、タイ語母語教室ラックパーサータイのスタッフ3名）

会場：中央図書館会議室、館内

内容：タイ語の通訳者を介して、図書館の利用方法の説明、館内見学会を実施した。普段の利用につながることを意識し、タイ語図書場所を中心に案内した。また、児童には、おはなしの部屋でサービス課司書による読みきかせを実施し、その間保護者には、3階の外国語本コーナー、新聞雑誌コーナーを調査資料課司書が案内した。

対応者：実行委員4名、通訳者2名、サービス課司書2名、調査資料課司書1名、企画運営課職員2名

広報：南吉田小学校に広報依頼

【工夫のポイント】

○事前に見学の説明資料をタイ語に翻訳し、見学の際に配布して使用した。

○9月29日午後に通訳者とサポーター向けにリハーサルを兼ねた事前研修会を実施した。

○実際にその場で参加者に利用登録をしてもらい、図書館カードの作成も行った。

見学会の様子



②展示会と展示図書の紹介

中央図書館と泉図書館（ベトナムにつながりをもつ市民の多住区にある）において、アジアの諸外国の本（日本語の翻訳書と原書）の展示会を開催し、また、展示会に合わせブックトークや絵本の読み聞かせを実施した。

i 中央図書館における展示会と関連事業

ア. 展示会「子どもの本で知るアジアの国々」

日時：平成20年10月21日（火）～11月16日（日）

会場：中央図書館1階 展示コーナー

内容：アジア各国で出版され日本語に翻訳された絵本を中心に、日本で出版されたアジアを紹介する児童書等、約200冊を国別に展示し、自由に手にとってみられるようにした。※閲覧用図書リストを会場に設置。

広報：チラシ・ポスターを市立図書館・学校・関係機関（あーすぶらざ・国際交流ラウンジ等）に配布、市立図書館情報紙・図書館ホームページに掲載

来場者：約1900人

※図書館の入口を入ってすぐの所にある展示コーナーで開催したため、一般の利用者も多く立ち寄り、多くの人に見てもらうことができた。



中央図書館展示コーナー

イ. ギャラリートーク・ブックトーク

日時：平成20年11月1日（土）～3日（月）

会場：中央図書館1階 展示コーナー、おはなしの部屋

内容：会場の展示コーナーやおはなしの部屋で、展示図書等の紹介や読み聞かせなどを行った。

○ギャラリートーク—13:00～（延3回実施、参加者17名）

○ブックトーク—14:00～と15:00～（延6回実施、参加者53名）



おはなし会の様子

ウ. おはなし会

日時：平成20年11月9日（日） 13:00～と14:00～

会場：中央図書館1階 おはなしの部屋

内容：おはなしの部屋で、展示した絵本の読みきかせ、展示図書等の紹介や外国出身市民等の協力者による母国文化の紹介などを行った。

参加者：67名

※展示会とその関連事業は「横浜アジアンウェーブ2008」と「横浜読書フェスティバル」の事業の一環としても取り組んだ。

ii 泉図書館における展示会と関連事業

ア. 展示会「子どもの本で知るアジアの国々」

日時：平成21年1月14日（水）～1月29日（木）

会場：泉図書館1階 カウンター前のスペース

内容：アジア各国で出版され日本語に翻訳された絵本を中心に、日本で出版されたアジアを紹介する児童書等、約200冊（中央図書館での展示と同じもの）を国別に展示し、自由に手にとってみられるようにした。また、通常の児童書展示架には、貸し出し用の図書も用意した。 ※閲覧用図書リストを会場に設置。

広報：区内小学校・関係機関にチラシ配布、市立図書館情報紙・図書館ホームページに掲載



泉図書館での展示

イ. 展示会関連事業「おはなし会と本のしょうかい」

日時：平成21年1月18日（日）、1月25日（日）の14:00～と15:00～（延6回実施、参加者53名）

会場：泉図書館 2階会議室

内容：14:00～の回—ベトナムを知る本の読み聞かせや民族衣装の紹介など

15:00～の回—アジア全般を紹介する本の読み聞かせなど

対象：小学生を主として、子ども～大人

参加者：14:00～の回（延2回実施）— 子ども20名、大人7名 計27名

15:00～の回（延2回実施）— 子ども17名、大人8名 計25名

広報：泉図書館近隣の小学校4校に児童の人数分チラシ配布、泉図書館でチラシ配布

【工夫のポイント】

ベトナム人及びベトナム在住経験のある市民を協力者としてお願いし、ベトナムの文化や遊びの紹介をしてもらった。

ウ. 講座「絵本で知るアジアの国々」

日時：平成21年1月23日（金）13:30～15:00

対象：絵本に関心のある市民、読み聞かせなどを行っているボランティアなど（参加者17名）

会場：泉図書館 2階会議室

内容：展示中の絵本についての紹介や小学校への巡回展示に合わせて行っているブックトークの事例紹介などを中心に、アジアの国々の絵本の紹介を行った。

講師：実行委員会代表（よこはまライブラリーフレンド、かながわこどもひろば）

広報：泉図書館でチラシ配布、関係機関にチラシ配布、市立図書館情報紙・図書館ホームページに掲載

③学校への児童書セット貸出

学校を対象に国または地域・言語別の児童書貸出セット（1セット約45冊、日本語の翻訳書を中心に一部原書）を3セット用意し、約1ヶ月単位で貸し出した。また、貸出セットのブックリストを作成し、配布した。さらに、地域の協力者と実行委員会メンバー、地域図書館司書が学校を訪問し、貸出セットを利用したブックトークを実施した。

i 児童書セット貸出

アジアの国々を知る児童書1セット約45冊を3セット組み、希望する学校へ1ヶ月程度の期間で貸出した。セットの図書は、市立各図書館から複本のあるものを中心に収集した。また、リスト作成にあたっては、あーすぷらごで実施した「絵本で知る世界の国々～展示とブックトーク」で使用したリストを基礎資料とし、それに児童書などを加えて作成した。

期間：平成20年11月～平成21年2月

実施校：市立小学校11校

主な対象：小学校3・4年生

<作業手順>

○平成20年10月16日の第2回学校図書館教育研修会（学校図書館担当教諭対象）において、事業説明と希望校募集の資料を配布し、説明を行う。

○希望校から申込を取る⇒18校から応募。

○日程、地域等を調整し、11校で実施することを決定。

※国際教室設置校、国際理解教育指定校など、地域性等を配慮し、必要性が高い学校等を優先的に選定した。



児童図書セット



ブックリストの表

【工夫のポイント】

- 教師が児童書セットの内容を把握できるようにA～Cまでの3セット分のブックリストを作成・配布した。また、ブックリスト作成にあたっては、「文化や歴史を感じることができる創作物語絵本や昔話絵本」「ノンフィクションの参考図書（調べ学習用図書）」「昔話集」「日本の作品の外国語翻訳版（日本語原書・ハンガール版・中国語版・タイ語版の組み合わせ）」のジャンルに分けて掲載し、内容や用途がわかるようにした。
- 児童書セットの運用は各学校に任せ、できるだけ多くの子どもたちに利用してもらえるようにした。
⇒設置場所が教室内や共用スペースなど、学校ごとに異なる。

ii ブックトーク

図書の該当地域に関わりのある地域の協力者（該当の国・地域の出身住民やその住民に関わるボランティアなど）と実行委員会メンバーが学校を訪問し、貸出セットを利用したブックトークを実施した。また、ブックトークは、各学校の要望に応じ、希望する学年のクラス単位で行った。

対象：児童書セット巡回展示を実施した学校の希望クラス
ブックトーク実施者：実行委員、地域協力者、図書館職員（中央図書館・地域館）



教室でのブックトークの様子

【工夫のポイント】

- 「国際子ども図書館」で実施している多文化・多言語を紹介するための本のセット貸出を参考にしたが、ブックトークを併せて実施したことにより、子どもたちが本の内容をより深く知ることができた。
- ブックトークでは、日本の作品が様々な言語に翻訳されているものを比較したり、2言語併記の本などを紹介して、子どもたちの関心を集めた。

④講演会と事業報告会

子どもの読書推進活動をしている一般市民、教職員等を対象に、一般にはあまり知られていない国・地域の子どもたちの読書状況を紹介する講演会を実施し、図書館の多文化・多言語サービスを考える機会とした。同時に、本委託事業での取り組みを普及し、理解を浸透させるため、写真による事業の紹介と実行委員による事業報告会を実施した。

日時：平成21年3月7日（土） 14:00～16:00

会場：横浜中央図書館 地下1階ホール

対象：子どもの本と図書館の多文化・多言語サービスに関心のある人（参加者52名）

広報：チラシを市立図書館・学校・関係機関（あーすぷらざ・国際交流ラウンジ等）に配布、市立図書館情報紙・図書館ホームページに掲載、実行委員による会報への折込み

i 講演会「多文化社会を生きる子どもと読書～ 違いをゆたかさにしよう！～」

講師：国立国会図書館調査及び立法考査局長（元国立国会図書館国際子ども図書館館長）

内容：ドイツ・ノルウェイ・ネパールなどの多文化社会における図書館活動の実際と図書館の多文化・多言語サービスについて

ii 多文化・多言語サービス推進事業実行委員会の活動報告会

報告者：実行委員

内容：通訳付き見学会とワークショップ、図書館における展示とブックトーク、学校へのセット貸出しとブックトークについての取り組み状況などの報告

※ホール入口のホワイエで、写真パネルによる事業の紹介も実施した。

(6) 事業の成果・効果と事業実施後の取り組み

①事業の成果・効果

事業の主な成果・効果は次のとおりである。

i 見学会・ワークショップについて

日本語をあまり理解できない子どもたちにとっては、図書館利用の初歩的なことも理解できない状況だが、母語の原書など、自分が利用できる本の配置場所等を知り、図書館カードを作成して実際に貸し出しを体験したことにより、その後の実際の利用行動に結びついた。

⇒港中学校の引率教諭より届いたメール：「生徒たちは大喜びで、あの後、図書館に戻り、カードを使って本を借りていました。ありがとうございました。」

ii 展示会と展示図書の紹介について

展示会でのブックトーク・おはなし会を通して、地域の協力者と図書館の新たな関係ができた。

泉図書館—ベトナムに関して活動しているボランティアとの関係ができた。

※ベトナムの人をターゲットにした事業は初めての試みであった。

南図書館—タイ関係のボランティアとのつながりで、タイ語の本の寄贈を受けた。また、その目録カードの作成にも協力を得た。

iii 学校への児童書セット貸出について

○子どもの反応

ブックトーク終了後の子どもの反応が非常によかった。外国の文化・言葉に興味をもつ子が多く、ブックトーク担当者に子どもたちから様々な質問、感想が寄せられた。

○教員の反応

学校の教員からの反応は非常によかった。横浜市では国際理解教育を推進し、その必要性を教員も理解していたが、具体的に対象児童に対してどんな本を提供したらよいかわからないという状態だった。児童書セットの貸し出しを実施したことで、学校図書購入に際しての参考にしてもらえた。また、ブックトークを学校で実施したことで、ブックトークのやり方なども今後の学校での活動に活かしてもらえる可能性を広げた。

○学校と地域図書館との関係づくり

ブックトークの学校訪問に地域館の司書が同行した学校もあり、地域館司書が小学校に出向いたことで、地元図書館と学校との関係づくりができた。

⇒教員と地域図書館司書の交流が深まった。

※横浜市には小学校が約350校あり、それに対して18館の図書館配置のため、学校と図書館が普段からつながりをもっている例は少ない状況だった。児童書セット貸出により、地域図書館司書が学校へ関わるきっかけとなった。

【成功のキーポイント】

通訳を付けての図書館利用案内、多言語絵本紹介、ブックトークなど、多文化・多言語に関する様々な活動の実践経験があり、そのノウハウと関連する人的ネットワークをもつメンバーが実行委員となり企画・運営に直接関わったことで、様々な取り組みに市民協力者等の多くの関係者を巻き込むことができた。

②事業実施後の取り組み

※平成20年度委託事業のため、省略。

(7) 課題と今後の展望

①課題

主な課題としては次のことが挙げられる。

i 多言語に対応する通訳者を見つけるのが困難

様々な国・地域につながりをもつ子どもたちに対応するためには、その国・地域の言語の通訳が必要だが、予算等の関係もあり、その通訳を見つけるのは簡単ではない。今回は実行委員をはじめとする人脈で依頼できたが、今後も、各国・地域の言語に対応できる通訳等の人材を探しておく必要がある。

ii 各区など、エリアごとの取り組みが必要

横浜市は360万という人がいてエリアも広いため、区ごと、もしくはいくつかの区をまとめたエリアで、各エリアの地域図書館、学校、ボランティアで活動に取り組んだほうがよい部分もある。そのためには、関係する様々な人・機関等をコーディネートできる地域のキーパーソンを見つけることが必要である。

iii PRに工夫が必要

横浜市は市の組織規模が大きく、各部門で様々な取り組みをしているため、市の広報紙やマスメディア等では図書館事業はあまり大きく取り上げられない。市民に取り組みを周知するためには、民間や地域情報紙、様々なネットワークの活用など、PRに工夫が必要である。

iv 事業継続の方向性

20年度は外国につながりをもつ子どもが多い地域などにターゲットを絞って実施したが、それ以外の地域にどう多文化・多言語サービスを広げるか、そのための費用の面をどうするかが課題である。展示やセット貸出は、現在ある市立図書館の蔵書を活用して今後も継続できるが、必要な図書は必要な冊数を揃えていくよう、蔵書の整備も必要である。

②今後の展望

今後の事業展開についての展望は次のとおりである。

i 市民独自での継続方法の検討

このような取り組みにどれくらい経費がかかるかが本委託事業で試算できたので、よこはまライブラリーフレンドではファンドなどの設立も視野に入れ、市民サイドでも継続的に取り組んでいけるようにしたい。また、今回の事業に関わった多くの人の人材ファイルができたので、今後も様々な活動に活かしていきたい。

ii 日本人の子どもと外国につながりをもつ子どもが相互に多文化・多言語を理解する機会の拡充

当初、日本人の子どもと外国につながりをもつ子どもとの交流による相互理解を意図したが、結果的に20年度は該当国・地域の子どもたちに重点を置いた取り組みになった。今後は、日本人の子どもと外国につながりをもつ子どもとが、相互に多文化・多言語を理解する取り組みへとつなげていきたい。

iii 多言語の翻訳本を活用した事業展開

日本では多言語の翻訳本が多く出版されているので、それを活用し、子どもたちに広く世界の状況を伝えるような事業の展開を図っていきたい。